

概要版

川崎市青少年科学館進行管理・評価の概要と目的

川崎市青少年科学館(以下、「科学館」と言う。)は、川崎市青少年科学館運営基本計画(以下、「運営基本計画」と言う。)に基づき、運営基本計画で定めた科学館の理念を達成するために進行管理・評価を行い、課題や成果の共有と、組織的・継続的な改善を進めます。また、評価の公表によって事業の客観性・透明性を確保し、市民・利用者への説明責任を果たします。

科学館の評価体制

科学館では、進行管理・評価の導入にあたり、館職員による自己評価と諮問機関である青少年科学館専門部会(以下、「専門部会」)による評価を併用します。科学館が自ら目標を設定し、達成状況について分析して、成果と課題を明らかにするとともに、その妥当性を専門部会による客観的な視点から検証し、事業や運営に関しての具体的な改善方策などの助言を受けます。

※これまでの「青少年科学館協議会」は、川崎市の全庁的な付属機関の見直しに伴い、平成28年度より「川崎市社会教育委員会議」の「専門部会」に位置づけられることになりました。諮問機関としての機能はこれまでの「協議会」と変更ありません。

評価区分

以下の通り評価区分・達成度区分を設けます。

＜評価区分＞

区分	内容
A	<u>目標に向かって順調に課題解決が図られているもの</u> ●目標の実現を阻害するような新たな課題や残された課題等はなく、目標に向かって順調に進捗している場合
B	<u>目標に向かって一定の成果が上がっているもの</u> ●新たな課題や残された課題等があるが、目標の実現に向けて今後も現在の取組を継続していくことで対応できる場合
C	<u>課題解決が不十分で取組の改善が必要なもの</u> ●新たな課題や残された課題等があり、目標の実現に向けて、計画の見直しや取り組みの改善が必要な場合
D	<u>課題解決が図れていないため、抜本的な見直しが必要なもの</u> ●前提としていた諸条件が大きく変化し、取り組み内容の抜本的な見直しを行わなければ目標の実現が困難な場合

＜達成度区分＞

区分	内容
5	<u>目標を大きく上回って達成</u> ・目標に明記した内容よりも相当高い水準であった。 ・目標に明記した数値を大きく上回った。
4	<u>目標を上回って達成</u> ・目標に明記した期日通り達成し、明記した内容よりも高い水準であった。 ・目標に明記した数値を上回った。
3	<u>目標をほぼ達成</u> ・目標に明記した期日、内容どおりに達成した。 ・目標に明記した数値とほぼ同じであった。 ・おおむね適正に処理し、業務遂行に支障がなかった。
2	<u>目標を下回った</u> ・目標に明記した内容・期日のいずれかが達成されなかった。 ・目標に明記した数値を下回った。
1	<u>目標を大きく下回った</u> ・目標に明記した内容・期日のいずれも達成されなかった。 ・目標に明記した数値を大きく下回った。

川崎市青少年科学館 平成28年度事業評価概要 (川崎市社会教育委員会議 青少年科学館専門部会)

事業計画に基づく評価区分		自己評価	(青少年科学館)自己評価達成度概要	総合評価	主な専門部会評価意見
展示事業	自然展示	3	展示資料の入替えや新資料の追加を行った。また、生田緑地ギャラリーでの展示、SNSの活用等により生田緑地の自然についてリアルタイムで情報発信を行った。	B	●「天文展示」で評価A、その他の項目は評価Bとされた。 ●毎月変わるオリジナル番組を生解説する「川崎方式」のプラネタリウム投影は高く評価された。一方で、展示更新情報の市民向け提供、科学展示における館の専門的関わり方などが課題として挙げられた。
	天文展示	4	毎月番組を制作する一般投影、親子で楽しめる「ベビー&キッズアワー」等の利用者定着等、多彩なプラネタリウムの運営を行った。	A	
	科学展示	3	川崎市立小中学校と連携した科学・理科作品展を開催するとともに、当館の科学実験キットを活用したサイエンスショーを初めて実施した。	B	
教育普及事業	自然体験	3	自然調査団との協働事業「生田緑地観察会(年32回)」ほか、各種講座を開催するとともに、学校が実施する「地層観察」等の支援を行った。	B	●全ての項目で評価Bとされた。 ●生田緑地の自然を活かした観察会やワークショップ、日本民家園との連携事業、未就学児と保護者向けの新たな科学実験教室などが評価された。一方で、学校の観察会への専門的関わり方、実行工房など自由参加プログラムや教員向け研修の成果検証などが課題として挙げられ
	天文体験	3	「アストロテラス」「アストロカー」での天体観察、小中学生向け「プラネタリウム番組制作教室」等の実施、プラネタリウム制作ソフト等教員向け研修を行った。	B	
	科学体験	3	実験工房(年61回)をはじめ、子供・大人向けの実験教室を多数開催した。科学実験キットによる出前授業、キット活用の教員向け研修を行った。	B	
調査研究事業	自然分野に関する調査研究	3	第9次川崎環境調査を継続するとともに、「川崎市生物目録」(仮称)の刊行に向け検討を行った。	B	●全ての項目で評価Bとされた。 ●長年続けられている自然環境調査など、各部門の取組みが評価された。一方で、これらの調査研究成果の活用、公表などが課題として挙げられた。
	天文分野に関する調査研究	3	明治大学との連携による木星の観測、市民に協力を呼びかけて「市域の星の見え方調査」などを行った。	B	
	科学教育に関する調査研究	4	出前教室などで使う科学実験キット「ワクワクドキドキ玉手箱」の改善・改良を行うとともに、新規開発を1件行った。	B	
収集保存事業	自然資料の収集と保存・管理	3	収蔵標本の分類整理、登録及び電子台帳の整備を進めるとともに、国内外に収蔵標本の情報公開を進めた。	B	●全ての項目で評価Bとされた。 ●自然資料の分類整理や登録、天文寄贈資料の整理が着実に進んでいることが評価された。一方で、科学分野における博物館資料の収集保存の考え方の整理が課題として挙げられた。
	天文資料の収集と保存・管理	3	寄贈資料の整理を継続し、成果の一部を「川崎市青少年科学館紀要」に報告した。	B	
	科学教育についての資料の保存・管理	3	実験教室の指導方法、反省点、参加者の感想などを報告書として整理し、今後の有効活用に努めた。	B	
ネットワーク事業	展示・企画ネットワーク	3	「かわさきサイエンスチャレンジ」に関係団体と連携して参加し、12のブースを出展した。	B	●「学習支援」で評価A、その他の項目は評価Bとされた。 ●学習への専門的支援、学校関係団体との連携や教員向け研修の実施、博物館実習の受入などが評価された。
	調査研究・収集保存ネットワーク	3	市民調査団体との協働を継続するとともに、川崎市の「生物多様性かわさき戦略」に基づき、環境局ほか関係部局との連携・協力を推進した。	B	
	学習支援ネットワーク	3	学校が行う各種観察会、科学分野の出前授業等の学習効果を高める資料作成、教員向け研修の開催したほか、職場体験や博物館実習を受け入れた。	A	
	地域振興ネットワーク	3	多摩区役所との連携による「星空コンサート」等の実施、地域商店会夏まつりへの参加等、地域団体との連携を図った。	B	
	生田緑地内ネットワーク	3	日本民家園との連携による七夕、お月見イベントの開催、緑地内各施設及び地域の連携による生田緑地サマーミュージアムやスタンプラリーに参加した。	B	
管理運営	管理業務の実施状況	3	指定管理者との日常的な連携・情報共有により、円滑な管理運営を行った。	B	●全ての項目で評価Bとされた。 ●博物館活動を担う学芸員の任期なし雇用の確保、自然部門ボランティアの育成が課題として挙げられた。 ●展示・収蔵資料の危機管理意識した防災対策、入館者数の減に対応する広報活動の充実、需要を把握したうえでの外国人利用者対応などが課題として挙げられた。 ●中・長期計画に基づき、単年度計画策定、実績及び自己評価をまとめること。客観的評価が可能な基礎資料の作成が課題として挙げられた。
	組織体制	3	天文や科学分野においてボランティア育成を行い、ボランティアが関連事業で活動を行った。	B	
	危機管理	3	定期的に避難訓練等を実施するとともに、指定管理者と災害発生時の対応体制の共有を図った。	B	
	施設の利活用(広報計画)	3	SNS等を活用し、発信力を高める等来館者層の拡充を図った。また、雑誌や映像取材にも柔軟に対応した。	B	
	施設の利活用(科学館の魅力高めるサービス展開)	3	適切な接遇、インターネットによる申込受付等、利便性向上を図るとともに、カフェのオリジナルメニュー、ミュージアムショップの新商品開発を行った。	B	
	施設の利活用(多様な利用者への配慮)	3	館内のバリアフリー点検を行うとともに、受付スタッフを中心に高齢者疑似体験研修を行った。聴力障害者を対象としたプラネタリウム字幕投影を行った。	B	
	進行管理	3	中長期計画に沿って進行管理を行った。	B	